



東アジア共同体評議会会報

The Council on East Asian Community Bulletin

Summer 2010 Vol.7 No. 3

『東アジア共同体白書』の発表迫る

「東アジア共同体構想をめぐる動きの現状をどう評価するか」との総合テーマの下で、当評議会は2008年3月より全11回の政策本会議を開催してきたが、3月17日にはその最終回(第11回)にあたる政策本会議「東アジア共同体構想の今後の課題と展望」を開催し、伊藤憲一議長から、これまでの10回の政策本会議の審議の内容を総括する形で、つぎのような報告を受けた。

伊藤議長は、「今夏にも『東アジア共同体白書』を発表し、2010年の時点で日本からみた東アジア共同体構想はどのようなものになるかを明らかにしたい」と述べたうえで、「東アジアの地域統合過程を見てゆく上で、『ナショナリズム』『グローバリズム』『リージョナリズム』という3つの『イズム(主義)』の役割と相互関係を認識するこ



報告する伊藤憲一議長(中央)

とが重要である」と述べ、ナショナリズムを過大評価する「東アジア共同体幻想」論も、リージョナリズムを過大評価する「東アジア共同体現実」論も退けたうえで、今後の東アジア共同体構想の展望を試みている。

すなわち、「ナショナリズムが、今日の国際社会において依然大きな要素であることは否定できないが、他方、21世紀を迎えた今日、19世紀型、20世紀型のナショナリズムがそのまま各国政

府を動かしているとは考えにくい。テロ、感染症といった国境を越えた諸問題について、世界的な協力がなければ解決できないというグローバリズムの論理に加え、地域レベルの協力を通じて物事が動き、解決されるというリージョナリズムの論理も無視しがたい。この3つのイズムは、もはや相互に排他的な対立関係にあるのではなく、相互に補完的な共生関係に入ったとみなければならない。このことは、日本についてあてはまるだけでなく、中国にもあてはまる。国民に経済発展の果実を分配するというのが、中国の国家戦略であるが、一面でナショナリズムをちらつかせつつも、他面でグローバリズム、あるいはリージョナリズムへの配慮というものなしに、そのような国家戦略を追求することはできない」と述べた。

国際アジア共同体学会と共同研究活動へ

当評議会は、6月1日から始まる新年度の事業計画の目玉として、今後国際アジア共同体学会(進藤榮一代表)との共同研究活動を推進することになった。具体的には、当評議会の政策本会議の場を当評議会と同学会の共同研究活動の場として位置づけ、双方協議のうえその運営を共催するというもの。当評議会としては、学会から知的刺激を受けることができるし、学会も当評議会から現場感覚を学ぶことができる、と期待されている。



「評・学共同委員会」のよう

本年度においては、年間の総合研究テーマを「東アジアものづくり共同体の展望」とし、まず7月22日(木)に学会側が「第2段階に入った東アジア共同体構想」との報告を行う。報告者は進藤学会代表。そのあと、10月には当評議会側が「東アジア食料共同体構想について」を報告する。報告者は大賀圭治NEAT作業部会主査(日本大学教授)の予定。年度内にあと2回の政策本会議の共催を計画している。

この共同研究活動を企画・実施するため、さる5月19日に第1回「評・学共同委員会」が開催された。「評・学共同委員会」とは、「評(当評議会)」と「学(同学会)」の間の共同研究活動のための意思決定機関であり、「評」側からは伊藤憲一当評議会議長が、「学」側からは進藤榮一同学会代表が共同委員長に就任した。

平林博常任副議長選任

当評議会は6月1日からの新年度入りを控えて、4月22日に運営準備会議(理事会に相当)、5月20日に運営本会議(会員総会に相当)を開催した。第3期役員任期が5月31日で終了することに伴う第4期役員選任および規約変更案等を審議し、いずれも満場一致で原案どおり承認した。

第4期役員選任では、中曽根康弘会長、伊藤憲一議長などの第3期役員顔ぶれがそのまま再任されたほか、これまで空席となっていた常任副議長に平林博副議長(日本国際フォーラム副理事長・元駐フランスおよびインド大使)が選任された。



平林博常任副議長

百家争鳴から

当評議会のホームページ (<http://www.ceac.jp>) 上の政策掲示板「百家争鳴」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

外国人看護師合格率1%とは！

サイバー大学客員教授・国際開発センター研究顧問 入山 映

経済連携協定 (EPA) に基づいてインドネシアとフィリピンから受け入れた看護師候補者254名が看護師試験を受験したが、その結果は、合格者3名だという。合格率じつに1%である。この試験の日本人合格率は90%を超えるというから、これをかくも難関にしているのは、日本語試験の結果だと見るのが至当だろう。高齢化社会だ、看護師・介護士不足だと言いながら、他方で、こんなことをしている。スローガンと美辞麗句は唱えるものの、それを実行に移すとすると、お役所任せになる。その結果が合格率1%の外国人看護師の誕生だ。きめの細かい仕事をしようとするれば、どんな仕事でもオカネがかかる。

財政破綻の日本にあって、何もかもというのは、ないものねだりに過ぎない。一番悪いのは、この外国人看護師制度に見られるような、いい加減な辻褃合わせだ。おカネだけ使って、誰の役にも立っていない。インドネシアの要望が強いかからと、外務省が渋る厚労省を押し切ってEPAを結ぶ。やる気のない厚労省が、現実の実行策の責めに当たる。仏を作って魂入れないどころの話ではない。毎年いくらの国費を使っているのかは詳らかにしないが、関係者誰一人満足しないプロジェクトになっている。外国人看護師に求める日本語試験の合格レベルについて、再考を求めたい。

(2010年3月30日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 5/19 「真に警戒すべきは、中国バブルの崩壊」(田村秀男) | 4/10 「外国人看護師の合格率改善のために」(田中尚) |
| 5/13 「各国政府から相手にされなくなった日本政府」(袴田茂樹) | 3/12 「『密約』後：では核抑止をどうするのか」(河東哲夫) |
| 5/7 「ハノイでのASEAN首脳会議の成果に注目する」(石垣泰司) | 3/11 「外交・安保政策の裁量の幅を狭めるな」(花岡信昭) |
| 4/24 「外国人への地方参政権付与に反対する」(四宮隆一) | 3/10 「政府は『非核2・5原則』の検討に入るべきだ」(杉浦正章) |
| 4/13 「北朝鮮崩壊の有事に備えるべし」(岡崎研究所) | 3/6 「『東アジア共同体』ではなく、『太平洋共同体』を」(青木寿幸) |

強まるASEANの「連結性」強化の問題意識

5月20日に開催された当評議会第40回政策本会議では、鹿取克章前ASEAN担当大使より、「あらたな段階を迎えたASEAN統合」と題して報告を受けた。

鹿取大使は「ASEANは、2015年の『ASEAN共同体』創設を目指して、統合のピッチを速めているが、そこで如



報告する鹿取克章前ASEAN担当大使(中央)

CEAC活動日誌(3-6月)

- ◇ 3月10日、5月10日 CEAC E-Letter 発行
- ◇ 3月17日第39回政策本会議 (伊藤憲一議長他21名)
- ◇ 3月17日第17回企画委員会
- ◇ 4月10日『メルマガ東アジア共同体評議会』発行
- ◇ 4月21日 JIN Chang Soo 韓国世宗研究所所長他2名来訪
- ◇ 4月22日第4回運営準備会議
- ◇ 4月25-26日 NEAT 第12回 CCM (マニラ) (矢野卓也事務局長)
- ◇ 5月19日第1回評・学共同委員会
- ◇ 5月20日第11回運営本会議
- ◇ 5月20日第40回政策本会議 (鹿取克章外務省研究所所長他15名)
- ◇ 5月21日 NEAT 金融協力WG (北京) (河合正弘有識者議員)
- ◇ 6月4日 NEAT 食料安全保障WG 国内会合 (大賀圭治有識者議員他8名)

■新規議員の紹介 (3-5月入会順)

【有識者議員】

- 中川十郎 (日本ビジネスインテリジェンス協会会長)
- 伊藤剛 (明治大学教授)
- 古屋力 (東洋学園大学教授)

■新規役員等の紹介 (3-5月就任順)

【常任副議長】

- 平林博 (日本国際フォーラム副理事長)

【顧問】

- 笹節子 (たちばな出版代表取締役)

【企画委員長】

- 吉田春樹 (吉田経済産業ラボ代表)

何に域内の『connectivity (連結性)』を強化するかという問題意識を強めている。『連結性』とは、鉄道、電力等のインフラ整備、通関システムなどのソフト面の改善に加え、心理的な繋がりがりまでを想定した広い概念である。『ASEAN centrality (中心性)』とともに注目される概念である」と述べた。



東アジア共同体評議会会報
2010年夏季号
(第7巻 第3号 通巻第24号)

発行日 2010年7月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 菊池 誉名

発行所 東アジア共同体評議会
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] ceac@ceac.jp(代表)
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.ceac.jp/